

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 6 8 号

2 0 2 3 年 1 2 月 1 日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

God's Perfect Gift Revealed

—The Message of Christmas—

K a t o C o r a z o n , Education Department



The birth of Jesus is not just a story but a series of events described in Scripture. The entire episodes were master planned by God, for He alone ultimately knew about the coming of the child, the purpose of his birth, life, and death (1 Peter 1:20). Jesus' birth symbolizes God's greatest love to humanity by giving His most precious gift to the world, His Son.

Christmas is more than just festive occasions, decorated trees, parties, and wrapped presents. Christmas is a celebration of a promised special gift, a baby born, bundled up in cloths, and humbly placed in a manger (Luke 2: 7). The birth of Jesus teaches us the spirit of giving.

We can express giving in different ways, and the nativity story of Jesus reveals some lessons about how to do so. In Bethlehem, when there was no more room to stay for Joseph and Mary, they were given a place to stay, so the baby was put in a manger (Luke 2:7); without any material gifts, the shepherds gave their reverence to baby Jesus by obeying the angel who shared them the good news. "This will be a sign to you: You will find a baby wrapped in cloths and lying in a manger" (Luke 2: 12). "When the angels had left them and gone into heaven, the shepherds said to one another, 'Let's go to Bethlehem and see this thing that has happened, which the Lord has told us about.' So they hurried off and found Mary and Joseph, and the baby, who was lying in the manger. When they had seen him, they spread the word concerning what had been told them about this child, and all who heard it were amazed at what

the shepherds said to them" (Luke 2:15-18). Nowadays, the shepherds' story gives testimony about the birth of Jesus and what they saw in the stable. And the magis, who journeyed from the East, gave gold, frankincense, and myrrh as gifts (Mathew 2:1; 2:11). So, what does the story teach us? The nativity of Jesus tells us that we can give kindness, highest respect, wealth, and ourselves to others without asking in return.

Have you heard of another story that an angel appeared to bring good news? The angel's annunciation to the shepherds revealed the identity of Jesus as the Savior, and Christ the Lord. "An angel of the Lord appeared to the shepherds, and the glory of the Lord shone around them, and they were terrified. But the angel said to them, "Do not be afraid. I bring you good news that will cause great joy for all the people. Today in the town of David a Savior has been born to you; he is Christ the Lord." (Luke 2: 9-11).

For generations, when a person of a high position in society is introduced, a particular gesture is observed to honor such a person. There is a special banquet, a welcome banner, a band playing, a party, etc. Similarly, God had a unique way to honor His Son's birth. Scripture says, "Suddenly a great company of the heavenly host appeared with the angel, praising God and saying, "Glory to God in the highest heaven, and on earth peace to those on whom his favor rests" (Luke 2:13-14). God showed us that the spirit of humility triumphed when the Son of God was born in a manger, not in a prestigious place.

The message of Christmas is all about the Gospel of Jesus Christ, God's perfect gift to the world.
Merry Christmas, everyone!

神の完璧な賜物が明らかに

ークリスマスのメッセージー

加藤 コラゾン (子ども教育学部)

イエスの誕生は単なる物語ではなく、聖書に記されている一連の出来事です。すべてのエピソードは主なる神によって計画されたものであり、御子の誕生や人生そして死の目的を最終的に知っていたのは神だけからです（一ペト 1:20）。神から世界へ送られた最も貴重な贈り物である「御子」が与えられたという意味で、イエスの誕生は人類に対する神の最大の愛を象徴しています。

クリスマスは、飾り付けられたツリーやパーティー、包装されたプレゼントで象徴されるような単なるお祝いの行事ではありません。クリスマスは、約束された特別な贈り物である御子が生まれ、布にくるまれ、みずぼらしい飼い葉桶に寝かされたことを祝う日です（ルカ 2:7）。イエスの誕生という出来事は私たちに「与えること」という精神を教えてください。

私たちはさまざまな方法で「与えること」ができますが、イエス降誕の物語はどのような方法で「与えること」できるかを教えてください。ベツレヘムでは宿屋にヨセフとマリアの泊まる場所がなかったので馬小屋をあてがわれ、産まれた子は飼い葉桶に寝かされました（ルカ 2:7）。羊飼いたちは御子の誕生を知らせてくださった天使の言葉に従い、産まれたばかりの御子に対し、物質的な贈り物ではなく、崇敬をささげた。「あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。（ルカ 2:12）」「天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、『さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか』と話し合った。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。（ルカ 2:15-18）」

今日、羊飼いの物語は、イエスの誕生と彼らが馬小屋で見たものについての証言であると言えます。そして、東の方から来た占星術の学者たちは、黄金と乳香、没薬を贈り物として献げた（マタ 2:1; 2:11）。では、この話は私たちに何を教えているのでしょうか？ 私たちは優しさで最高の敬意、富、そして私たち自身をほかの人たちに与えることができるということをイエスの降誕は私たちに教えてください。

天使が良い知らせをもたらすために現れたという別の話を聞いたことがありますか？ 天使が羊飼いたちに告げた言葉は、イエスが救い主、そして主キリストであることを明らかにしました。「主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、羊飼いたちは非常に恐れた。天使は言った、『恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町であるあなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主キリストである。』（ルカ 2:9-11）」

いつの時代にも、社会的に高い地位にある人が紹介される時は、その人を称えるための特定のしるしが見られます。例えば特別な晩餐会や横断幕、バンドの演奏、パーティーなどが行われます。同様に、神は独特の方法で御子の誕生をお称えになりました。聖書には、「突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。『いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。』（ルカ 2:13-14)」。神は、神の御子が格式高い場所ではなく飼い葉桶で生まれたとき、謙虚な精神が勝利を収めることを私たちに示してくださいました。

クリスマスのメッセージはすべて、神から世界への完璧な贈り物であるイエス・キリストの福音に関するものです。

みなさんメリークリスマス！

ドイツのクリスマス

私は 1995 年から 98 年までドイツに滞在しました。以下ではクリスマスについて当時の印象を記させていただきます。

ヨーロッパのクリスマス・イブは、ちょうど日本の正月のように「家族水入らず」の日である。ドイツでは、12月24日の午前中は日本の大晦日のようで、普段はゆったりしているドイツ人もせわしく動き回り、クリスマス期間中に必要な料理の材料や生活必需品を買い込み家路へと急ぐ。なぜなら 24 日の午後から 25、26 日の「クリスマスの期間」は国民の祝日で、商店は全て閉まり、27 日まで買物ができないからだ。夕方になるとモミの木でつくったクランツにロウソクの火をともし、「きよしこの夜」などの讃美歌を歌って、部屋の中に飾ったもみの木のクリスマスツリーの下に置いてあ

八木橋 康広 (宗教主事)

たプレゼントを子供達に配ってから、夕食をともにし、クリスマスケーキ（シュトレン）を食べて家族団欒の時間を過ごす。

食事が終わってしばらくすると、まずプロテスタント教会で燭火礼拝が始まり、普段の日曜日はがらがらの礼拝堂もこの日ばかりは「超満員」となり、牧師の説教を聞き、キリスト生誕を賛美して礼拝を守り、終わると手に持ったロウソクの灯をともしたまま、凍てついた道をそれぞれの家路へとつく。夜が更けてくると今度はカトリック教会でクリスマス・ミサが始まり、それが終る頃には、静まり返った町中で教会の鐘の音が響き出し、御子イエス・キリストの降誕を祝う。

まず自分の住む町のカトリック教会とプロテスタント教会の鐘の音が大きく聞こえ、更に耳を澄ますと、隣の町の教会の鐘の音が、さらにもっと遠くからの鐘

の音が聞こえてくる。あたかもイブの深夜は、ドイツ中で聞こえる音という音は鐘の音ばかりであるかの如くである。

このクリスマス・イブの日は、子供達ばかりか、自立心が旺盛で親元を離れるのが早いドイツの青年たちも、ほとんど例外無しに親元で過ごす。友人の日本人留学生の住んでいたある大学の学生寮は 23日頃から急に寂しくなり、24日には余程遠い外国からの留学生以外は皆無となり、ドイツはもとよりフランス、スウェーデンなどのヨーロッパ中から来ている学生が親元に帰省してしまい、寮は幽霊屋敷のように静まり返ってしまう。その友人も寮でクリスマスを過ごすのに耐えられずに、暖かくて日差しの強いイタリアを目指して、逃げだすように旅立って行った。

クリスマス・イブの日に通りから眺める家々は、心なしかどの家も限りなく明るくて暖かい印象をうけ

る。あたかもそれらの家々のともす灯は、「外の暗闇と死の世界」からくっきりと自らを区別して、自分たちの擁する「光といのち」を際立たせ、誇り、賛美しているかのような感じを受ける。だが、一体なぜそんな印象を受けるのだろうか。

それは、どの家もこのイブの夜は「家族にとって特別の聖なる日」であって、団欒のうちに家族の愛情を確かめ合い、その愛情の発露を窓越しに感じるからではないだろうか。そして実に多くのヨーロッパの人々がクリスマス・イブを「家族にとっての聖なる日」としているのは、言うまでもなくイエス・キリストの誕生の際に現された養父ヨセフと母マリヤの幼子イエスに対する深い愛情にまことの家族の姿を見て、それにありべき家族の姿を指し示されているからではないだろうかと思われて、ヨーロッパの地に深く根差したキリスト教の重厚さを感じたのであった。

幼少期のクリスマスの思い出

安藤 信雄 (スポーツ健康科学部)

今でも何故か幼稚園でのクリスマスのことはよく覚えている。プロテスタントである父は、私を小さな教会の幼稚園へ通わせていた。私はバスに乗ることを楽しみに通っているだけの無信仰者であった。

日曜日は早朝に行われる園内でのミサへ通ったが、日曜日だからか園のバスは迎えに来ず、両親も連れ添わない。なぜなら当時、父は通信社の特派員であったので留守勝ちで、母は寝たきりの祖母を看病していたからだ。

園児にとって日曜の朝早くに長い道のりを一人で、それも徒歩で通う羽目にあうのは苦痛であった。さらに、ミサでは参列者が歌を歌っている間に牧師が帽子をもって巡回し、皆その帽子に寄付金を入れる。私はそのお金を貰っていなかったもので、何も出すことができなかった。ミサに出席しながら義務を果たせていないという疎外感を感じたことを覚えている。そのうちミサを休みがちになると、「熱心に通う園児を見習うように」と、牧師から遠回しに言われた。実はその園

児は園の斜め向かいの家に住んでいるのを私は知っていた。いつしかミサに通わなくなった。

その園では、クリスマスになると園児保護者が集まりささやかなパーティーを行っていた。その一コマとしてキリスト誕生時の劇を行った。不信仰者の私であるのにキリストが生まれるシーンで小屋を訪れる三人の旅人のうちの一人を演じる役に抜擢された。演じるといっても先生に言われた通りに衣装をまとい、舞台上に上がって言われた場所に座っているだけの役だったのだが。優秀な園児がセリフを読み劇は終わった。

そんな家族だが家でクリスマスの祝いをするのは熱心だった。家族でささやかなパーティーを催し、ご馳走とケーキを食べられるのがうれしかった。またサンタクロースが母に告げておいたクリスマス・プレゼントも持ってきてくれるので、翌日の朝、起きるのが何よりも楽しみであった。今日まで私は無信仰者で生きてきたが、幼稚園時代のミサと劇の思い出と共に毎年クリスマスを祝っている。

「2023年度 中部学院大学・中部学院大学短期大学部 クリスマス献金」

Pray for the World!!

今年も主イエス・キリストのご降誕をお祝いするクリスマスの季節がやってきました。

クリスマスは、主イエス・キリストがご自身のすべてを人々の幸せのために捧げつくしたことから、

私たち自身の一部を少しでも人々の幸せのために捧げ合うことを実践する季節です。

今年の献金は、国内外の災害被災地及び活動団体への支援を継続して覚えたいと思います。

皆さん、温かな思いをもってご献金ください。よろしくお願いたします。

なお、昨年は108,255円の温かい献金をいただき、20の施設・団体、活動に献金いたしましたことをご報告いたします。

募集期間 2023年11月27日(月)～12月25日(月)

献金予定先: 大災害の被災地のために [日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室 いずみ]、災害被災地、ガザの人道支援]
地域の諸活動のために [野宿生活支援の会・岐阜、岐阜いのちの電話、キリストへの時間、愛知老人
コミュニティセンター、あゆみの家、親隣館他]
世界の諸活動のために [ミンダナオ子ども図書館(フィリピン)、アハリ・アラブ病院(パレスチナ・
ガザ地区)、ジョセフ記念教育基金(スリランカ)]

— 献金箱の設置場所 —

【関キャンパス】総務課カウンター・教員控室 【各務原キャンパス】事務室

2023年度 クリスマス礼拝

「嬉しくて楽しいクリスマス」

日本基督教団 敦賀教会 牧師 有岡 史季 先生



日 時：12月18日(月) 13:20~14:40

会 場：関キャンパス グレースホール

◆プロフィール

はじめまして、有岡史季と申します。2017年4月以来、日本基督教団敦賀教会の牧師と、併設する敦賀教会幼稚園の園長を兼任しています。よろしくお願ひ致します。私がこの敦賀教会に至るまでの人生を振り返り、最も影響を受けた言葉は、恩師のこの一言でした。「キリスト教は答えを教えてくれるワケじゃない」。当時、悩みを抱える私にとって、この一言は突き放されるような衝撃を伴う一方で、けれど、悩める自分を「悩めるまま」受け入れてくれる教会の包容力を感じさせるものでした。以来、私はキリスト教って案外と思慮深く、懐深いものだなあ、と思いながら教会生活を送っています。そして、私自身も思慮深く、懐深い人としてお役に立てるよう、今日も教会と幼稚園で頑張っています。

◆クリスマス礼拝の朗読箇所

ルカによる福音書2章1~20節

東野圭吾という作家さんの作品に『名探偵の掟』という短編集があります。ミステリー作品で扱われる「密室」とか「アリバイ」とか「なんで主人公の周りでは事件が多発するのか」という、お約束にツッコミを入れる展開が、とても楽しい作品です。1841年にエドガー・アラン・ポーという作家さんが、短編小説『モルグ街の殺人』を書いて以来、数多くのミステリー小説、推理小説が生み出されてきました。しかし、200年近い歴史と、「ミステリー」「推理」という外せない決まり事がある以上、どうしてもその分野全体がマンネリ化し、「なんか、似たような話聞いたことあるぞ」という感じになってしまいます。東野さんの『名探偵の掟』は、そういうミステリー慣れ、推理慣れした読者に刺さるよう、ちょっと捻くれた工夫が散りばめられた作品ですね。私は、同じく作文を仕事とする牧師として、作家さんの振るう、そういう頓知と才気が羨ましいなあ、と思います。…で、何が言いたのかと言いますと…、日本で生活している以上、毎年逃れられない「クリスマス」を、様々な角度と密度で経験されてきたであろう、皆様に「一体、今更、どんなクリスマスの話をしたら良いんだろうか」という、私の不安を伝えたかったのです。もちろん、キリスト教の専門家として、理屈っぽい「聖書のお話」はできますが…。でも、クリスマスの目的が「喜び祝う」ことなら、その目的は、すでに世界規模で果たされているわけで…、にも関わらず、その「喜び祝う」雰囲気、小難しい言葉で解説すると言うのは、面白い漫才の、その「面白さ」を真顔で解説してドヤ顔を定めるくらいの不粋さがあるように思います。なので、当日は、すでに楽しいクリスマスを、もっと楽しく過ごせるように、あるいは、今年こそは楽しく過ごせるように、そんな話をさせてもらうかな、と考えています。望むと望まざるを問わず、クリスマスを意識する人たちは、すでに全員、神様とイエス様の関係者です。関係者同士、今年さらには喜び祝えるクリスマスを過ごせますように。祈りつつ、準備しています。